

# 埋文ふじのみや

MAIBUN

Vol.2



城山遺跡

今回は、“遺跡の発掘”や土器など“出土遺物の整理作業”といった、埋蔵文化財センター独自の仕事内容をご紹介します。一般のかたの目に触れることは少ない、専門的な仕事道具も登場します。

# 発掘調査ってどうやるの？

## まず 現場での発掘作業

富士宮市には 248 カ所の遺跡が分布しています。その遺跡の範囲内で新しく開発を行うには、事前に「確認調査」（土地の一部を試掘する）を行い、埋蔵文化財の有無を確認します。その結果、遺物（石器や土器など）や遺構（住居址など）が見つかった場合は、本調査（開発を行う土地全体の調査）を行うこととなります。

### 発掘する理由

遺跡は本来、保護・保存しなければなりません。そのため、開発で失われてしまう遺跡を保存するための調査を行います。遺跡を調査することにより、遺跡の情報を記録・保存し、遺跡があった事実を伝えていくためです。これは緊急調査と呼ばれるもので、ここで説明している発掘とは、ほとんどがこの調査です。その他にも学術的に価値の高い遺跡の調査研究、現状保存や整備活用方針の策定を目的とした学術調査などがあります。



最近ではドローンを使った遺跡撮影も。

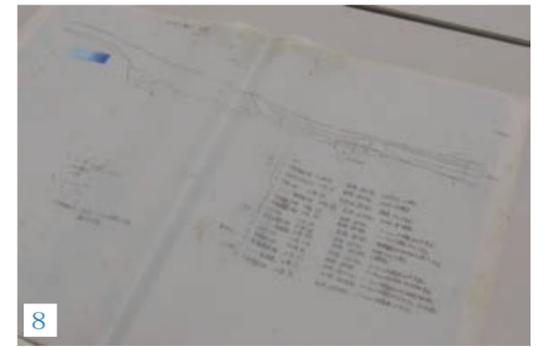
- 遺跡の全体を、高い位置から撮影し、記録に残す。（写真は「丸ヶ谷戸遺跡」）。
- 遺物は、出土地点を記録し、壊れないよう慎重に取り出す。完全な形で出土することはまれ。
- 水や汚れに強い、特殊な素材の「マイラー」という方眼紙に遺跡の情報を記録する。



6



土器が出たぞ～



8



まるで工事現場のような測量風景。



1



2



3



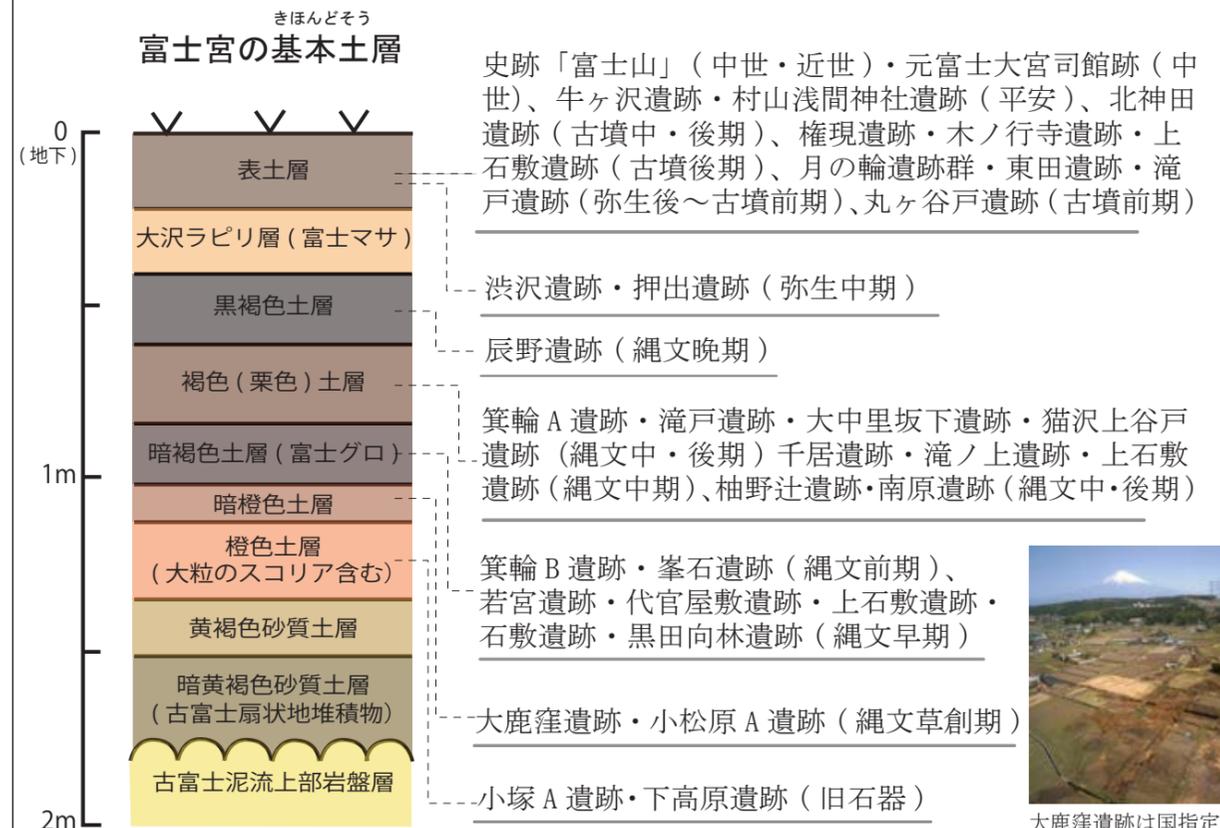
4



5

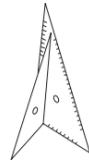
- 重機を使って表土（遺構に影響しない部分）を、調べる遺跡の直前まで掘り下げる。
- 「トレンチ」と呼ばれる試掘坑。
- トレンチでは、土の色や質（＝土層）の違いを見る。
- トレンチから遺構や遺物が出ると、調査範囲全体を掘り下げる本調査を行う。遺構や遺物の位置を記録し、遺物は取り上げて整理作業へ。遺構はさらに掘り下げ、形や特徴などを図面にする。

### 富士宮の基本土層とそれぞれの土層で出た主な遺跡



大鹿窪遺跡は国指定の史跡！

# 次に 室内での整理作業



発掘調査を行った市内の遺跡の詳細については、富士宮市教育委員会が発行する「報告書」にまとめます。報告書に掲載するために、持ち帰った遺物（土器や石器など）の記録を取ったり、現場の図面・写真を整理する作業を「整理作業」と呼びます。現場での発掘作業→屋内での整理作業→報告書発行と進みます。



1



2

矢じりへの注記。字の大きさはほんの数ミリ。



3



4



石膏を入れ、復元（左）。石膏に着色したもの（右）。

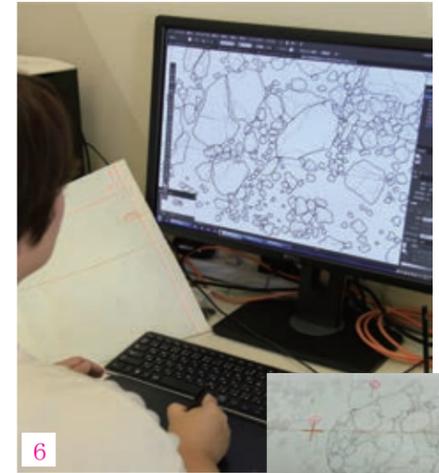
1. **洗浄** 持ち帰った遺物の土を落として、ブラシで丁寧に洗って乾燥させる。
2. **注記** 細筆で、遺物に遺跡の名前や番号を書き込む。
3. **接合・復元** 割れたり欠けたりしている遺物を接着剤などで接合し、石膏で補強して元の形に復元する。
4. **実測** 遺物を計測し、図化する。形だけでなく、文様の位置も正確に測って方眼紙に記録する。



均一に墨を乗せ、ムラのない拓本に仕上げる。



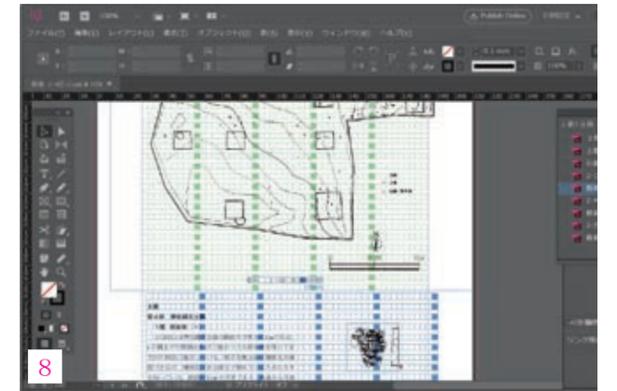
5



6



7



8

## ～報告書が完成！～



9

5. **拓本** 土器などの文様を紙に写し取る作業。紙が破れたりしないよう慎重に行う。
6. **トレース** 手描きした遺構の図面や遺物の実測図をはっきりとなぞり、データ化する。
7. **撮影** 遺物を種類ごとに撮影。色味や文様がきちんと見えるように撮っていく。
8. **原稿作成・編集作業** 遺跡についての事実記載等の原稿を執筆。原稿と遺物の実測図や遺構の図面をレイアウトし、書籍として印刷できるようデータをまとめる。
9. **報告書刊行** 遺構や遺物のデータおよび、そこから考えられる遺跡の性格評価などをまとめた「発掘調査報告書」を刊行。これらは全国の自治体や大学、図書館に送付される。

発掘&整理作業で活躍するツールを紹介

道具図鑑

埋蔵文化財センターの職員が日常的に使っている道具。専門的なものもありますが、みなさんはこの中でいくつ見たことがありますか？

発掘作業で使う道具

測る道具

ピンポール①で掘る場所（トレンチ）の四隅に目印をつける。スタッフ②を使い、レベル③で遺構や遺物の高さ（＝標高）を計測する。



掘った土を運ぶ道具  
人力で掘る際に出た土を箕④で集め、ネコ（一輪車）⑤に乗せて運ぶ。



土を掘る、削る道具

重機を使った後は、人力で遺物や遺構がないか確認しながら鋤簾⑥や移植ゴテ⑦で少しずつ土を削っていく。細かい部分には竹べら⑧、深く掘る場合は、お玉⑨が活躍することも。



整理作業で使う道具



マコはこう使う！

実測の道具

土器の実際の大きさや文様を方眼紙に記録する際、真弧①で丸みを、キャリパー②で厚みを、ディバイダー③で文様の間隔などを測り、2～4Hなど薄めの芯ホルダー④で描く。消しゴム⑤も細長いものを使う。



色付けの道具

石膏部分に水彩絵の具⑪と絵筆⑫を使い、元の色味に近い色を塗る。



拓本の道具

中に真綿の入ったタンポ⑥に墨⑦を付け、印画紙⑧に土器を包み、その文様を写し取る。



石膏の道具

ボウル⑨に石膏を溶き、ペインティングナイフで⑩土器の欠けた部分を埋めて修復する。

遺跡から富士宮の原始・古代を考える  
邪馬台国時代の富士宮

I. プロローグ

遺跡から出土したものから何が言えるか、改めて考えてみようと思います。今回のお話のキーワードは邪馬台国としてみます。

埋蔵文化財センターでは、数多くの土器、石器、金属器などの出土品を保管していますが、ここに載せたのは、その中の小さな出土品で、昔、芝川町が柚野の辻遺跡で採集していた土器と石器です。土器は3点、石器が2点あります（図-1）。

土器は全て弥生時代のもので、台付甕と呼ばれる「鍋」で、土器の底に台が付けられたものの台の破片です（図-2）。昔、囲炉裏が使われていた頃に、五徳と呼ばれる鍋、釜を据え置くための台がありました。それが直接、鍋の底に取り付けられたと考えていただけると分かりやすいかもしれません。

石器は、弥生時代を代表する石器で、木工用の「手斧（ちょうな）」として使われ

埋文センター所長によるコラム  
考古学への招待 Vol.1

WELCOME TO THE WORLD OF ARCHEOLOGY



ちゅうじょうかたはせきふ  
た柱状片刃石斧と「のみ」に使われた扁  
べいかたはせきふ  
平片刃石斧となります。それぞれ蛇紋岩  
じやもんがん  
きりよきょうかいがん  
と輝緑凝灰岩でできており、いずれも他  
の地域から運ばれてきた石器であると言え  
るものです。

これらの出土品は、土器の形の特徴から弥生時代の後期中頃のものと考えることができます。石器も恐らくその頃のものとなります。考古学では、土器の形、石器の組み合わせなどからその年代を決めますが、これらの資料は、弥生時代後期中頃に限定されたもので、2世紀の前半頃となります。

さて、問題は、その時代と遺跡が築かれた地域の関わりではないかと考えます。この点に着目して、なぜ、辻遺跡にこの時代の遺跡が登場したのか考えてみることにします。

(以下次号)

図-1

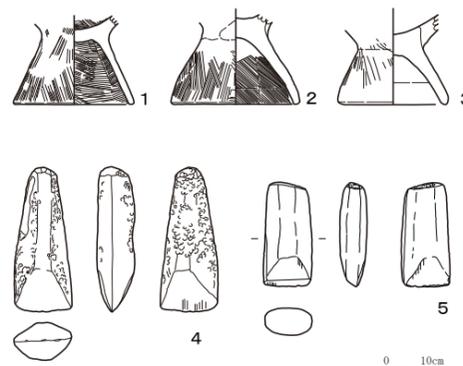


図-2



浜松市梶子遺跡

## 次号の案内

次号からは、市内の遺跡を詳しく紹介していきます。

しもたかはら  
下高原遺跡（富士宮市山本）…旧石器時代

おおしかくぼ  
大鹿窪遺跡（富士宮市大鹿窪）…縄文時代

## 富士宮市の見どころ案内 9月～11月の予定

### 富士宮市立郷土資料館企画展示

「史跡大鹿窪遺跡発掘調査成果」展 9月22日（土）～平成31年1月27日（日）

史跡大鹿窪総括報告書の刊行にともない、大鹿窪遺跡の遺構や遺物の紹介をします。

場所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市民文化会館1階）

時間：午前9時～午後5時（第三月曜日、年末年始12月28日～1月3日休館）

### あさぎり高原まつり 10月1日（月）～31日（水）

10月の1ヶ月間、あさぎり高原の各施設でイベントが開催されます。

### 柚野の里まつり 11月24日（土）

大鹿窪遺跡の歴史と里山の自然あふれる柚野地域を楽しむ祭りです。

場所：富士山縄文の里大鹿館（富士宮市大鹿窪）

## 富士宮市埋蔵文化財センター

### ご利用案内

所在地 〒419-0315

静岡県富士宮市長貫 747-1

電話 0544-65-5151

FAX 0544-65-2933

E-mail maibun\_center@city.fujinomiya.lg.jp

展示室

開館日 平日

\* 祝日及び年末年始（12月28日～1月3日）は休館

開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）

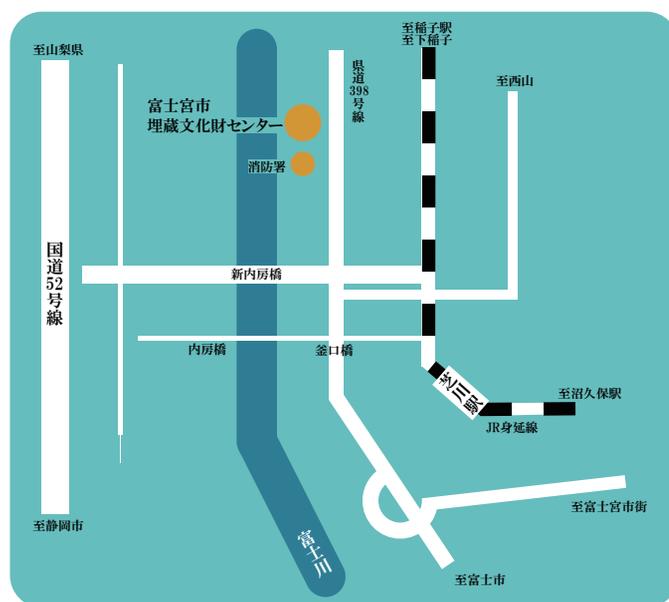
\* 埋蔵文化財センターの業務時間は  
8:30～17:15

見学料 無料

駐車場 あり（無料）



### 交通案内



富士宮市埋蔵文化センターだより  
**埋文ふじのみや** Vol.2

平成30年9月  
編集／発行 富士宮市埋蔵文化財センター